



《第 45 回東京モーターショー2017 アウディ プレスブリーフィング》

アウディ ジャパン株式会社 代表取締役社長 齋藤 徹によるプレゼンテーション

皆さま、おはようございます。本日は、東京モーターショーアウディブースにお越しいただき、誠に有難うございます。今年のモーターショーのテーマは、「Beyond the motor」ですが、まさに、前回のモーターショーからわずか 2 年の間に、1 世紀以上にわたる自動車の概念を大きく変えるような変化が、目の前で起こっていると感じます。

エンジンからモーターへ、というパワートレインの電動化はもちろんのこと、最近のコネクティビティーや自動運転技術の目覚ましい進化は、私たちが長年親しんできた自動車に根本的な変化をもたらすことが明らかになってきました。

確かに、自動運転は、自動車の意味そのものを変えてしまうような進化です。クルマのシステムが人間に代わって運転という行為を引き受け、リアルタイムでクラウドと通信しながら、決してクラッシュすることなく、常に最も効率のよいルートで運転を行う。かつてはサイエンスフィクションの世界とされていたオートパイロットが、2020 年代のうちにも実現することが予見されています。

コンピューターの運転は、まだまだ信用できない、という慎重な方もいらっしゃるでしょう。ドライバーがいて、アクセルやハンドルを人が操作してこそ、クルマであるという自動車ファンも少なくありません。アウディは、もちろん、そうしたクルマを運転する行為の意味や愉しみを否定するものではなく、完全自動運転の時代になっても、操る楽しさのあるスポーティなクルマを作り続けるつもりです。

今回出展している新型 Audi A8 は、世界で初めてレベル 3 の自動運転システムを可能にしたクルマですが、自動運転に対するアウディの考えを少しお話ししたいと思います。まず、レベル 3、レベル 4 といった定義は、あくまで技術的なカテゴリー分けであり、重要なのは、ユーザーにどういったメリットがあるのか、その使用形態だということです。

全世界で、12 億台以上のクルマが走る現代社会においては、過密化する都市の渋滞はますます激しくなり、それによる事故や経済損失は増大しています。また、常に外界と繋がり忙しい毎日を送る現代人にとって、毎日の通勤路の運転や、都市間の長距離移動は、退屈で無駄な時間と感じられるでしょう。そうした状況では、自動運転システムが運転を代行すれば、そこで生まれた時間を、仕事や同乗者との会話、もしくはリラックスすることなど、ほかの有意義な活動に使えます。

アウディが新型 Audi A8 で、高速道路における渋滞時に、同一車線内での自動運転を行う「Audi AI トラフィックジャムパイロット」を開発したのは、渋滞中の運転に費やす時間を、ユーザーに有効に使ってもらえると考えたからです。アウディでは、こうして生まれるエキストラな時間を「25 時間目」と呼んで、どのような過ごし方が可能で有意義か、研究を重ねてきました。



アウディは、自動運転技術は、一挙に飛躍的に進化するものではなく、段階的に進むものだと考えています。先月のフランクフルトモーターショーで、レベル 5 の完全自動運転のリムジンカーの Audi Aicon と、レベル 4 の高度な自動運転機能を持つコンセプトカー Audi Elaine concept を同時にお披露目しました。

Audi Aicon は、アクセルもブレーキも、ハンドルもない、完全自動運転の車で、例えば、毎日の通勤や都市間的高速移動で使用するパーソナルリムジンです。個人もしくは、数人のためのファーストクラスの空間を提供するクルマと言っていいでしょう。しかし、航続距離 800km の EV である Audi Aicon が現実のものになるには、まだ 10 年以上かかるでしょう。

一方、今回こちらでも展示している Audi Elaine concept は、2019 年に生産を開始するアウディの 2 番目の電気自動車 Audi e-tron sportback のプロトタイプと言ってもよいクルマです。Audi Elaine concept は、高速道路を時速 130km まで自律走行することができ、またガレージでは、バレーパーキングの代わりに、自動運転で自らスペースを見つけ、駐車します。このように一定のエリア内や環境下では、ドライバーの介入の全く必要のないレベル 4 の高度な自動運転機能を搭載しています。Audi Elaine concept は、500km の航続距離を持ち、アウディ初の EV となる e-tron に続いて、日本にも 2020 年までに導入する予定です。

そして、来年日本で発売する新型 Audi A8 は、「Audi AI パークパイロット」や「Audi AI ガレージパイロット」といった自動運転機を含め 40 種類ものドライバーアシスタンスシステムを搭載します。レベル 3 の「Audi AI トラフィックジャムパイロット」の導入には、日本を含むほとんどの国で、システムがクルマに代わって運転することを認める法的な整備が必要ですが、アウディはそれに向けて、積極的な働きかけを行っています。アウディは、こうした自動運転技術が、事故を減らしてクルマの安全性を高めることはもちろん、人間を単調で生産性の低い作業から解放し、より自由な時間を生み出していくという、自動車のモビリティの新しい可能性を信じているからです。

こうした自動運転のクルマには、高度なセンサーやコンピューターが搭載されており、AI としての機能を進化させていきます。近未来のクルマには、ドライバーのパーソナルアシスタントとして AI が常駐し、クラウドと常時通信しながら、安全に快適に運行するだけでなく、ドライバーの気分や体調に応じて、音楽を選んだり、空調を操作したりして、ドライバーをあらゆる面でサポートするようになります。

こうしたことから、今回のアウディブースのテーマは、「Audi AI Experience」としました。来場されたお客様は、こちらのステージ上の新型 Audi A8 のシートに座って、Audi AI がイメージする新しい自動車を、映像や光のアートで体験することができます。新型 A8 の車内では、全く新しいタッチパネルを介した操作系もご体験いただけます。

新型 Audi A8 のもう一つのイノベーションは、量産モデルとして初めて、48 ボルト電源をメインシステムとして標準搭載したことです。12kW の強力な回生エネルギーを生じるスターターオルタネーター



を装備したマイルドハイブリッドシステムにより、時速 55km から 160km までのコースティングや、時速 22km 以下でアイドリングストップが可能となり、燃費を 100km 走行あたり 0.7ℓ も削減しています。

また 48V 電源により、4つのモーターを駆動して、4つのホイールを個別に制御するアクティブサスペンション機構を世界で初めて搭載しました。例えば、側面からの衝突が不可避な場合には、衝突する側の車体を 8センチ持ち上げることで、衝撃を大幅に低減する機能を有しています。この 48V 電源とマイルドハイブリッドシステムは、皆さんの右手にある Audi Q8 sport concept においても、より強力な形で搭載されており、このモデルも 2 年以内に日本に導入予定です。このように、新型 Audi A8、Audi Q8 sport concept、そして Audi Elaine concept は、もう目の前にある未来を体現しているモデルと言えるでしょう。

さて、クルマがこれからより便利に快適になる未来をお話ししましたが、最後に、そのもう一方の極にあるクルマを運転する楽しみについても触れさせて下さい。

アウディは、完全自動運転の時代が到来しても、人がクルマを操る楽しみをもったスポーツカーは決してなくなりません。EV になっても、私たちの五感を刺激する Audi R8 のようなクルマは、存在し続けるでしょう。

アウディがそう信じる証拠のひとつが、ドイツメーカーとして初めて、今期からフォーミュラ E にファクトリーチームとして参戦することです。また、Audi R8 や Audi RS 3 Sedan によるカスタマーレーシングは、世界中で人気の高まりを見せており、日本でも SUPER GT やスーパー耐久への参戦の機会を提供しています。

昨年から本格的に展開しているアウディスポーツのモデルとしては、今年 Audi RS 3 Sedan、Audi RS 3 sport back や、Audi RS 5 Coupé を発表いたしました。来年は今回展示している新型 Audi RS 4 Avant を発売します。アウディが開発した 2.9ℓ 450 馬力の V6 エンジンを搭載し、0~100km をわずか 4.1 秒で加速するスーパースポーツ並みの性能を持つ Audi RS 4 Avant は、まさに羊の皮をかぶった狼と言えるでしょう。

AI による高度な自動運転から、サーキットにおけるスーパースポーツまで、クルマは私たちにこれまでにならぬほど拡がりのある多様な世界を提供しています。その先にある未来を信じて、アウディはこれからも先駆けて跳躍する、Vorsprung することを続けていきたいと思えます。

ご静聴、有難うございました。